

第13回

監修・執筆 大月康弘

十字軍の時代

今回学ぶこと

11世紀末、西ヨーロッパは、カノッサの屈辱(1077年)によって、ローマ教皇が皇帝より優位な政治体制となった。この西ヨーロッパ世界で、イスラーム勢力が占領する聖地エルサレムを奪回する運動が起こる。1096年に第1回の遠征が行われ、以後、計7回の十字軍が聖地をめざした。十字軍は、最終的には聖地を奪回することはできなかった。しかし、この遠征によって西ヨーロッパの人びとは、地中海世界の異文化を知ることとなった。西ヨーロッパの王、貴族がこぞって参加した十字軍が、西ヨーロッパ、イスラーム世界に及ぼした影響についても学ぼう。

調べておこう・覚えておこう

- エルサレムがどこにあるか、地図帳で確認してみよう。
- ドイツ、フランス、イギリスの場所と、エルサレムとの距離を地図上で測ってみよう。
- 神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世が育ったシチリア島には、多くのアラブ人とギリシア人が住んでいた。シチリアの場所と王宮のあったパレルモの位置を確認してみよう。

十字軍の背景

エルサレムはキリスト教徒にとって重要な聖地。だが、7世紀以来、アラブ・イスラーム勢力の支配下にあった。聖地エルサレムの統治は、キリスト教世界の支配者にとって長年の懸案だった。カノッサの屈辱を経て、西ヨーロッパ世界において優位に立ったローマ教皇は、11世紀末、この聖地奪回を訴える。ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけに応じて、西ヨーロッパの王や貴族たちが、1096年、第1回十字軍を結成した。これ以後、十字軍は、13世紀に至るまで計7回行われた。しかし、結局、聖地奪回は実現しなかった。

他方、イスラーム社会では、7世紀以来、キリスト教徒、ユダヤ教徒の人びとも平和に暮らしていた。十字軍の攻撃を受けて、イスラーム社会の中にキリスト教社会に対する反感が生まれ、イスラーム勢力によるキリスト教、ユダヤ教社会への弾圧、攻撃も引き起こされたことは、十字軍がもたらした負の影響だったといえる。

地中海と異文化交流

地中海世界は、イスラーム勢力とキリスト教勢力が対立する舞台であると同時に、さまざまな文化が交流する場所でもあった。12世紀に成立したノルマン系のシチリア王国の王宮には、キリスト教のイコン（聖像画）とともに、イスラーム風の人々も描かれ、ムスリムやラテン系の人々とも共存していたことが分かる。

一方で、西ヨーロッパ世界は、地中海世界との交流が薄かったが、十字軍が行われることで、人びとは異文化を知った。これにより、彼らの中に、キリスト教世界として一体感が生まれ、キリスト教信仰にもとづく「ヨーロッパ」の一体感が生まれた。十字軍がもたらしたものは、地中海世界の文物と、西ヨーロッパの人びとの一体感だった。

十字軍とフリードリヒ2世

第5回十字軍を指揮した神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世（在位 1220～1250年）は、イスラーム勢力と和平を結んで、エルサレムの統治権を得た唯一の例外だ。12～13世紀、彼が育ったシチリアには、アラブ人、ギリシア人が多数生活していた。王を宮廷で支える人びとも多様で、フリードリヒ2世はラテン語、アラビア語、ギリシア語に通じていた。エルサレムを支配するアラブ勢力との巧みな外交で、戦うことなく聖地の統治権を手にしたフリードリヒ2世。シチリアでの多文化共存社会に育った彼だからこそ、戦わずして和平交渉を進め、エルサレム王ともなれたのだった。

多文化が共存した地中海世界のシチリアと、カトリック＝キリスト教で統一された西ヨーロッパ社会との違いについて考えてみよう。